

授業科目 (ナンバリング)		調剤 I (事前学習) (N4F411) (実践的教育科目)		担当教員	大磯 茂*・早川 正信*・室 高広*・ 神田 紘介*・大久保 伸哉*・中島 健輔*・ 藤本 京子・川崎 達也 (*実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習・実習	単位数	2 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、処方せんと調剤、医薬品の管理と供給等に関する基本的知識、技能、態度を修得する。							①②④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 医療の担い手が守るべき倫理規範、患者・生活者の個人情報や自己決定権を説明できる。 処方せんに基づき医薬品の調製をシミュレートできる。 特別な配慮を要する医薬品の管理方法を説明できる。 				筆記試験 実技試験	35% 40%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。 医薬品情報を適切に使用できる。 				筆記試験	5%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。 他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。 				グループ討議・プレゼンテーション	5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。 				課題レポート	5%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。 				観察記録	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション (SGD) およびその発表により評価する。 筆記試験は、講義、演習・SGD および実習で行うすべての項目を出題範囲とする。 実技試験は、計数調剤、計量調剤、分包、調剤薬鑑査のうち、指定する 1 つ以上の項目の習得度を評価する。 レポートは、SGD 実施日から 1 週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合ならびに誤字・脱字は、減点の対象とする。 レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。 観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。 							
授業の概要							
<p>病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD 及び実習に活かし、4 月から 5 月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。SGD 後にはレポート提出を課す。実習については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオに演習問題を出題する。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは 112.5 分、演習として行うものは 45 分、実習として行うものは 45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人):教科書① スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人):教科書②</p> <p>参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人)、 調剤学総論改訂 13 版(南山堂)、調剤指針第十四改訂(薬事日報社)</p> <p>指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人) スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
医療における薬剤師の使命を理解し、生涯にわたる自己研鑽の必要性を認識して欲しい。医薬品が有効かつ安全に適用されるための調剤、医薬品管理等の薬剤師職務に関する知識、技能、態度を修得し、病院・薬局における実務実習につなげて欲しい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	臨床における心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（講義） (大磯)	教科書① p 11～25 の予習、配布プリントの復習	888、889
2	臨床における心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範と法令、患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応（演習・SGD） (大磯・早川・室・神田・大久保・末廣・中島)	教科書① p 11～25 の予習、配布プリントの復習	888、889
3	医薬品の供給と管理 (1)	医薬品管理の意義と必要性、医薬品管理の流れ、医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件（講義） (大磯)	教科書① p 191～199 の予習、配布プリントの復習	959、960、966
4	医薬品の供給と管理 (2)	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱い（講義） (大磯)	教科書① p 191～199 の予習、配布プリントの復習	961
5	医薬品の供給と管理 (3)	特定生物由来製品の管理と取り扱い、代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法（講義） (大磯)	教科書① p 191～199 の予習、配布プリントの復習	962、963
6	患者情報の把握	基本的な医療用語、略語の意味（講義）（中島）	教科書②の p 3～7 の予習、配布プリントの復習	986
7	処方せんに基づく医薬品の調製	処方せんの種類・特徴・必要記載事項、処方せんに基づく薬袋作成（演習） (大久保・中島)	教科書① p 103～111 の予習、配布プリントの復習	925
8	処方せんに基づく医薬品の調製 実習 (1)	薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤・自己注射用注射剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (全員)	教科書① p 124～133 と実習書の該当部の予習	925、926、927
9	処方せんに基づく医薬品の調製 実習 (2)	薬袋・薬札の作成、外用剤の計量調剤、調剤薬鑑査、錠剤鑑別（実習） (全員)	教科書① p 124～133 と実習書の該当部の予習	925、926、927
10	処方せんに基づく医薬品の調製 実習 (3)	薬袋の作成、内用散剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (全員)	教科書① p 124～133 と実習書の該当部の予習	925、926、927
11	処方せんに基づく医薬品の調製 実習 (4)	薬札の作成、内用液剤の計量調剤、調剤薬鑑査（実習） (全員)	教科書① p 124～133 と実習書の該当部の予習	925、926、927
12	随時試験	筆記試験と実技試験		

注) 上記の第1回～第12回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。